

会 議 報 告 書

1 会議名	平成26年度第5回北上市子ども・子育て会議		
2 日 時	平成27年1月21日（水） 午後1時30分～2時45分	3 場 所	本庁舎庁議室
4 出席者	<p>【委員】今西界雄会長、佐藤仁美委員、笠井壽枝委員、古舘弘美委員、鈴木恵美子委員、高橋郁男委員、小川さつき委員、畠山竜司委員、大塚健樹委員、岸隆子委員、佐藤和美委員、及川正男委員（委員出席12名、伊藤隆一委員は代理者が出席、欠席1名）</p> <p>（事務局） 6名 （傍聴者） 2名</p>		

【内 容】

次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶 （教育長、今西会長）
- 3 議 事 （議事は今西会長の進行）

(1) 北上市子ども・子育て支援事業計画（素案）について【高橋係長が説明】

説明の要旨

あらかじめ送付していた案及び概要版に沿って、内容を説明する。

協議結果

計画書そのものについての具体的な質問はなかったが、課題である保育士の確保策について、それぞれの立場から意見が出された。

【主な質疑、意見】

- ◆ 保育士の確保については大きな課題であるが、その対策として、
 - ① 今いる保育士の離職を防ぐとともに、新卒者の首都圏への流出を防ぐために、処遇改善が必要。
 - ② 結婚、子育てで一度離職した保育士に、復帰しない理由をヒアリングしたり、戻ってきやすいように、研修や試し就労をさせてみる制度があればよい
 - ③ 園の希望と保育士の働きたい時間帯等の希望のマッチングが難しい。
 - ④ 保育士は女性に偏っているが、男性の割合が増えれば、出産や育児で抜ける時期を防ぐことができる。また父親役としてのニーズも高まっているので、男性保育士の増加を進めたほうがいいのではないか。
 - ⑤ 出産、育児の期間抜ける保育士の分の代替職員を配置した園に対して、市から補助金をだし、出産育児を理由に保育士がやめなくてもよいようにしている。
 - ⑥ 奨学金を借りる生徒はおおよそ7割いるので、保育の3年制コースを作り午前中は勉強、午後は保育現場でアルバイトをするという形態はどうか。看護師でこの方式を採用しているところがある。

◆外国人就労者への対応について

セブンイレブンの新工場にブラジルから就労者300人が来るという情報がある。外国人への対応も考える必要がある。

→日本郵政の事務所も来るようだが、人数が未定だったため本計画のニーズ量の数値に見込んでいなので、今後の計画の見直しの際に考えていく。外国人対応については、先進地の例などを参考にしていく。

◆保育園については、質の向上を図り、安心して預けられる施設とすることが大切。

【まとめ】

1月26日より2月16日まで、市民から意見をいただくためパブリックコメントを実施する。委員の皆さんも気づいたことがあれば、期間中にこちらにお寄せいただきたい。

パブリックコメントを踏まえ、最後にもう1回当会議を開催して最終案を確認していただき、計画を決定する予定である。